

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373001300		
法人名	医療法人 明心会		
事業所名	グループホームゆきあい		
所在地	愛知県豊田市平芝町2丁目2番5		
自己評価作成日	平成27年12月31日	評価結果市町村受理日	平成28年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=2373001300-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
聞き取り調査日	平成27年1月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自分のことは自分で楽しく行える生活が継続できるように」と運営理念を掲げてケアを行っている。入居者一人ひとりが有意義で円滑な共同生活が行えるように、また、今できることを継続できるように、ケアを行っている。入居者の希望や個々のレベルに合わせたゆとりある対応が行えるよう、職員の多くは常勤で配置し、責任意識を高く持ち、入居者に寄り添う支援を行っている。家族が面会に来られた時は、ゆったりとして頂けるよう心がけ、職員との会話(情報交換)も積極的に行っている。地域の方との交流も増え、行事に参加させて頂いたり、ホームのレクリエーション、行事等にもご協力頂き楽しく行うことができています。職員は内部研修、外部研修に参加し、資質向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」
 ②軽減要件確認票
 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「自分のことは自分で行える生活が継続できるように」の理念を実践できるように、入居者の個別ケアを実施、個々の能力を職員間で共有している。 運営理念は事務所と玄関に掲示している。 理念を常に念頭においている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域のイベント、文化祭、防災訓練、自治会を通して、地域の方々に職員や入居者を覚えてもらうことに努めている。 自治会に加入し、自治区の広報を毎月もらっている。 今年のホームの夏祭りでは地域の役員に相談し流しそうめんの竹を持ってきてくれたり、七夕の笹を切ってきてくれたりと、協力いただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	電話、訪問での問い合わせには傾聴し相談内容を理解して、誠意が伝わるよう対応している。 中学生、社会人ボランティアや実習生を受け入れ、認知症の人の生活する様子を体験してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度の会議を開催し、報告、話し合いを行っている。グループホームを理解していただき、協力を得ている。 地域の行事や活動を聞き、参加させていただいている。 包括支援センターから意見や情報も得られ、参考にさせてもらっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市介護相談員が毎月来訪。入居者の様子等を口頭で報告したり、行事・レクリエーションについても報告し密な関係を築いている。入居者への話しかけ方、かかわり方を見聞きして今後の対応に活かしている。意見交換書を取り交わし、助言を頂いている。 必要時は介護保険課に助言を頂いたり、実情の報告をしている。 市のサービス向上連絡会、講習会には毎回参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束とは何か、当たる行為は何かを内部勉強会で定期的にテーマとして取り上げ、学んでいる。 無断外出、転倒など事故の無いよう目を配り、職員間で声を掛け合い見守りを行っている。 玄関には鍵を掛けないケアを継続している。 介護方法を職員全員で考え、入居者の尊厳が保てるようなケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	介護事故、ヒヤリハットレポートに気づいたことを記入し、職員間で共有している。 入居者の心身状態の把握に努め、変化や異変に気づいた時は、職員同士の情報交換や指摘ができるように話し合っ防止に努めている。 勉強会を開き、学ぶ機会を設けている。研修なども積極的に参加している。 虐待の芽になりやすい、不適切なケアについてミーティング等で話すようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会やセミナーなど利用して学び、知識や理解を深め、分からないことは自己にて勉強している。 入居者の中に成年後見人制度を利用されていた方がおり、どんな制度が勉強し、把握している。 必要があれば、関係者に助言、相談等し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約内容を把握し、入居者へサービス提供を行っている。 入居前に十分な時間をとり、一つ一つ説明している。入居者が家族等の不安、疑問点を尋ね、納得がいくまで説明し、理解した上で署名・捺印を頂いている。信頼関係ができるよう関わっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族交流会を定期的に行っている。要望、意見を伺う機会がある。相談や要望を伺ったとき、その都度検討し、対応するよう努めている。個別相談も都度検討している。 家族同士の意見交換できる時間も作り、心配事等を話し合える機会を設けている。 今年は、クレープパーティー、バーベキューを行った。 外部評価のアンケートに答えていただいている。 外部の相談機関の紹介もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月、ミーティングを行い、意見や提案を出し合う機会を設けている。 日常業務、その他の提案、意見、疑問がある場合、話し合い、法人や管理者に相談したり意見を聞いている。 説明、報告等を職員全員共有できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	労働条件は法人の規約書がある。給与等、労働条件は法人から説明を受け、確認したいことは管理者を通じてうかがっている。勤務の要望は管理者に伝え、休日や有休もとりにやすい環境。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月ミーティングがあり、勉強会をおこなっている。職員同士の意見交換があり、ホーム全体の理解の場がある。外部研修の受講希望も考慮され研修など積極的に行っている。 内部研修に法人内から講師を招いて聞くことも増えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同業者との勉強会やイベントに参加し、関わりがある。意見交換や共同作業する機会がある。 団体、市主催の勉強会に参加できるように時間を作ってくれている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に家族、本人と面談を行い入居に対する思いや不安・意向などを聞いている。アセスメントした情報は職員に伝達し、職員の関わり方のヒントにしている。 入居されて初めてお会いしたとき、自己紹介を行い、安心して話せる関係作り、雰囲気良くしている。傍に寄り添い、笑顔で話しかけ、不安を取り除くことに努めている。 呼びかけに笑顔で答えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族等が求めていることは何かを傾聴している。 家族、本人の要望、困っていることなど職員が共有し、本人にとって何が望ましいかを考えながら、家族との信頼関係を築けるようにし、同じ方向で対応できるよう努めている。 本人の前では話しにくい場面もあるため、家族との面談の場も作るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族、その他関係機関からの情報を元にアセスメントを行う。自分が収集した情報を職員と共有し、ホームで生活していく上での対応や注意点などを検討している。ホームとしてできる事できないことははじめに伝え、その上で本人や家族にとって安心出来る支援をどのように提供できるか説明している。 今までと同じような生活環境を再現できるようなサービス導入できるよう努めている。早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を心がけ、場合によっては別事業所を紹介することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家事活動などを通して、入居者一人ひとりが得意とすることや、個性を活かされるよう、能力に合わせたり、できる力を見極めて支援していくことに努めている。できることは自分でやれるように、また、能力が活かせるような場面を作り出せる環境を整えることを職員全員で取り組んで支援している。他入居者との関係が良好になるよう、声掛けも進んで行うように努めている。入居者には人生の先輩として敬意をもって接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族が来訪された時は、入居者の日ごろの様子を伝える。外出、外泊時の様子など家族に聞き、情報共有している。毎月、「今月の気づき」を元に1ヶ月の様子を家族にお知らせしている。家族にしかわからないことやできないことが本人の生活に重要であることを常に意識し、家族の思いも聞き入れ、共に支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会に制限がなければ、家族以外にも、友人、知人に面会に来ていただいている。入居者が昔の事や大切な人の話をされる時は特に傾聴し、面会時に伝え、次も来訪され易い支援を行っている。家族の協力のもと、入居前から継続している習い事を入居後も行っている。定期的に家族と外食や自宅へ外出、外泊したり、家族旅行に出かけた方もいる。なじみのスーパーやコンビニへの買物を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者が共同生活に、協調協同できる配慮に心がけて声掛けや誘導している。トラブルが起こらないよう把握に努め、個人の時間とのメリハリを考えたり、職員が間に入ったりし、未然に防げるような対策を考えている。皆の中で孤立しないよう、お互い良好な関係で居られるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他事業所へ移る時は、必要な情報をできるだけ詳細に伝えるようにし、入居者が移った先でも穏やかに暮らせるよう支援している。サービス利用後も、必要に応じて相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者との日常会話から、希望、意思を良く観察するようにしている。希望や意思を伝えてもらい易い関係作りに努めている。職員間で共有し、最善な方法を話し合い、本人の希望、意思を尊重しながら押し付け出ない支援に努めている。散歩、外出希望は、本人が納得できるよう、できる限り付添いで行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者の日常生活、会話、個人記録で馴染みの暮らし方を把握、理解し、支援に努めている。 入居前に、本人、家族、利用していたサービス事業所などから日々の暮らし、入居に至るまでの経過、生活歴など分かる範囲で聞き取りしている。入居後も気があることがあれば、家族より情報提供してもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	業務での把握と生活記録での情報共有に努めている。1日の暮らしの流れに沿い、本人の状況を把握し、生活記録を残している。また、ケアプランや日課計画表に沿った記録も記入し、全員が情報共有できるようにしている。入居者がどのような様子だったのかを把握する為、出勤時に申し送りを受けたり、記録を読んだりしている。受診時には、連絡ノートを活用し、情報を共有している。 一人ひとりの症状を常に把握し、対応し、無理の無い生活をしてもらうように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月替わりで入居者の「今月の気づき」を作成し発表。モニタリングを行い、カンファレンスで課題を共有し話し合っている。課題、支援はケアプランに反映するよう心がけている。 入居者が主体となるようなケアプランを作成している。基本的には6ヶ月ごとに見直ししているが、変化に合わせた見直しも行っている。 家族へは月1回暮らしぶりや心身の状況を手紙で送付している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者の日常の様子を個別に記録し、勤務者に申し送りしている。記録からも情報共有しながら、実践やケアプランに活かし、ケアの向上に努めている。 記録を読むだけで状況が伝わるように記録の大切さを理解し、より良い記録になるよう努めている。 毎月のカンファレンスで出た意見はケアプランの見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者がどのような生活を望んでいるかをモニタリングして、必要なサービスを考えている。家族との会話の中から要望、希望を聞きだして、意向の導き出しに努めている。 突然の外出、外泊など家族の要望にも、本人の状態を見て対応している。 地域の行事にできるだけ全員が参加できるよう工夫し、取り組んでいる。年2回の行楽は定着しつつある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ホーム行事にボランティアを受け入れている。地域の行事にも積極的に参加する。運営推進会議を2ヶ月に1回行い、地域との交流を図り、地域で安心して暮らせる関係作りに努めている。こども110番の家にも加入している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医を決めてもらい、入居前からの病院、主治医を継続して受診してもらっている。家族同伴で受診してもらい、必要時には情報提供書を作成し、生活の様子、症状を伝えている。家族に口頭で必要な情報を提供している。医師より助言を受けることもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師がおり、具合が悪いときや変化のある時など報告。相談したり、日々の関わりについても話し合い、意見を出し合っている。必要時には母体病院に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはサマリーや電話などで情報交換。 入院時は、経過や変化の情報提供や日々の暮らし方や認知症の様子等の情報提供も行っている。ホームの状態を伝え退院後も受け入れ可能なように協力している。早期退院できるよう病院関係者と情報交換し相談に努めている。必要時、病院へ出向くこともある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	現状では、看取りは行っていないことを入居時に説明し、了承を得ている。出来るだけ長く、ホームでの生活を送り続けてもらう。早期対応で健康チェックを行っている。早い段階から家族と話し合い、ホームで出来ることを再度説明し、今後の方針についても話し合い、納得してもらい支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故対応のマニュアルはすぐ見ることが出来る場所にある。定期的に見直し、目を通し、シミュレーションしている。外部研修も参加し、実践力を身につけている。内部研修も実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	自治会の避難訓練に参加し、手順の確認をしたり、入居者を知ってもらう機会にしている。 年2回、入居者と共に日中・夜間を想定した避難訓練を行っている。消火訓練も行っている。 反省点や今後の課題についても話し合い対策について考えている。ヘルメットを購入し、と取りやすい位置に設置した。 予防課の方に来ていただき、地域の方に向けて、話をしてもらう予定がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者個々の人格に応じ、声掛けや接し方に気をつけている。一定の節度を持ち、礼儀ある態度を心がけている。 言葉遣いや部屋に入る時の声掛けに配慮し、プライバシーを尊重している。トイレ誘導や入浴介助にも気をつけている。 他入居者の記録にはイニシャルで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者の意思確認を行い支援している。その都度、入居者の声に耳を傾け、思いを汲み取り働きかけている。日々の生活の中でコミュニケーションを十分図るよう心がけ、本人の思いや希望などを言えるように接している。好みを見極め、入居者本人が選び易いように、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	毎日の様子を観察し、個々のペースに合わせ、日常生活を過ごせるように配慮している。本人のペースを崩さないよう支援したり、本人の希望にそって、その日の過ごし方を聞き入れながら支援している。できるだけ今までの生活と近い環境で暮らしてもらえよう心がけている。ホームのスケジュールとして、食事などの時間は決まっているが、その日の体調など臨機応変に対応するよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	清潔で季節に合った洋服を着られるよう、明るく楽しい気分になれるよう入居者の好みを尊重し選べるように支援している。2ヶ月に1度、理容サービスに来てもらっている。外出の時は、本人と共に見栄えの良い服を選び支援している。季節にあった衣類を身につけられるよう時々タンスの整理をしたり、助言をしている。衣替えは家族にも協力してもらったり、本人が脱ぎ着しやすい洋服を購入してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の能力に合わせて、職員と一緒に野菜の下準備や盛り付けの食事準備や食器洗いや食器拭きの後片付けなど積極的に声掛けし、皆で行っている。入居者の持っている力を出せるよう見守りながら参加してもらっている。入居者の好みや硬くて食べにくかったなどの意見を聞き入れメニュー作りに役立てている。献立はその時旬の物を取り入れ、食べ物からも季節を感じ取ってもらえるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	バランスや量など考えて作っている。個々に量の調節を行い水分もこまめに少しずつ摂取できるよう気を遣っている。刻み、とろみの工夫を嚥下状態に合わせて対応している。嗜好や身体状態に適した食事の支援を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、見守りや介助にて全員口腔ケアを行っている。歯磨きが困難な時でも口腔内には残渣物が残らないように注意している。また、口腔内を観察し、問題があれば家族に報告している。義歯は毎日消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	入居者の排泄パターン記録をつけて、声掛けを行い、トイレで排泄できるように誘導している。オムツに頼らないよう心がけ、清潔な状態が保てるように努めている。徐々に改善していけるよう日中は布パンツ、夜間は紙パンツにするなど本人も安心して過ごせるよう工夫している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の記録、個々に対応した排便コントロールを行っている。食事量や形状、水分摂取に気を配り、必要に応じて服薬支援もしている。便秘傾向の方が多いため散歩や体操など行い腸蠕動の活性化に努めている。朝食にヨーグルトやヤクルトを毎朝提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入居者のペースに合わせて声掛けしている。リラックスできるように会話をしながら行っている。週2回を基本に、体調に無理のないように支援し、体調や気分、外出等に合わせて変更している。介助の必要度に応じ二人介助で対応し安全に入浴してもらっている。入浴剤、化粧水などで保湿している。季節の菖蒲湯やゆず湯も取り入れている。入浴時には皮膚状況の早期発見と清潔保持で気持ちよい生活してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼夜逆転しないよう、生活リズムを整えながら、レクリエーション、散歩、家事など適度に体を動かし、夜間安眠できるように支援している。 状況に応じては日中、休息の支援もしている。夜間の睡眠に影響が出ないよう適宜声掛けしている。 元々の生活リズムに合わせた寝起きを尊重しつつ、不規則になりすぎないように配慮している。 夜間良眠出来る環境づくり(清潔で気候に応じた寝具、衣類)を調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者個々の服薬内容を記入した用紙を元に夜勤者が翌日の内服薬を準備。服薬前には二人でチェックしてから服用してもらっている。服用時は声に出して日付、名前を入居者と確認、誤薬を防いでいる。受診等で変薬があった場合、職員同士情報共有している。症状の変化に応じ、医師の指示を仰ぐ時もある。薬の副作用の出現早期発見できるようにしている。 薬に関する外部の研修に参加したり勉強会をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者個々にあった楽しみや趣味を見つけ、気分転換や喜びある日常生活が送れるように支援している。 地域の文化祭に出展することを目標とし、作品作りもしている。 習字が得意な入居者がおり、月1回地域の習字の先生がボランティアとして教えに来てくれている。 食器拭きや洗濯物畳み、植木の水やりなどの家事役割も持ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は入居者の意思を聞き、行きたい所へ散歩に出かけている。季節を感じられる場所で休憩をして会話をしている。出かけるのが困難な方もウッドデッキや玄関で外気浴を行い、外の風に当たることで気分転換してもらっている。 介護タクシーを利用して年2回行楽にも出かけている。全員参加できるように支援している。地域のイベントやコンビニや和菓子やへ積極的に出かけ、好きなものを選び買うようにしている。 散歩に出かけない入居者も買物には行くことができたので継続できればと思う。 外出希望時は家族に協力してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的にはホームは管理していないが、本人の希望を聞き入れ、家族同意のもとで、本人に所持してもらい、買物に行き、金銭のやりとりが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状、暑中見舞いは入居者に書いてもらい家族に出している。 入居者宛に掛かってきた電話は取り次いでいる。希望があれば電話をしたり、手紙を書くことを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとの飾り付けを行ったり、工作物などを作成したりしている。行事の写真を居室やホームに手作りで飾り付け掲示している。 食卓席ばかりではなく、ソファに移ってテレビを観たり、自由に過ごせるように支援している。 ホールではどこの席からもテレビを見ることができるよう、配置に工夫をしている。 温度や湿度に気をつけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食卓で団欒されたり、ソファでテレビをみてゆっくり過ごしたりしている。ソファに集まってカラオケやゲームを楽しめるようにしている。 ホールにはレク用品が自由に出せるように配置され、思い思いに過ごしていただけるようにしている。 入居者同士の関係や和やかな雰囲気になるよう配慮し、課題が生じた場合は、席替えをする時もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族や本人と話し合いをして、家具や使い慣れた道具、写真などを置き、居心地良い環境づくりをしている。また、入居からの写真をアルバムにしたり、行事レクで作成したものを、目に付くところにおいてある。 毎朝の清掃は、基本的には本人に掃除をしてもらえるように声掛けし、必要に応じて支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者の自立を促すことが出来るようよう環境整備を行い、安全に楽しく過ごせるよう配慮や工夫をしている。一人ひとりの目線に合わせた環境づくりに取り組んでいる。 新規の入居者が入居されたときには、今まで安全だったところも再度見直ししている。 ホール全体が見渡せる、スタッフの位置も気をつけて支援している。		